

第5回 神奈川県営水道事業審議会 水道料金部会 議事要旨

日時

令和5年3月8日（水曜日） 14時00分～15時20分

主な議事内容

- 料金体系の見直しの方向性について議論を行った
- 今後の水道料金収入の見通しについて、水需要予測の委託結果を踏まえた簡易シミュレーションを用いて議論を行った
- 企業債の活用方法について、各与件における簡易シミュレーションを用いて議論を行った

主な意見（議事要旨）

- ▶ 収支構造の全体が見えていない状況ではあるが、審議会の本体会議で議論された「年間305億円」程度を所与として考えていかざるをえないことを確認した。
- ▶ 現行の企業債充当率（70%）のままでは、現実的な経営の方向性としてはありえないという印象を受けた。年ごとに減少させる率（数値）は別として、方向性としては、企業債充当率を減らしていくべきではないか。
- ▶ 企業債残高を見ると、他団体と比べて極めて負担が大きい状況にあり、ある程度、企業債を抑制していくという方向感を持った方がよい。
- ▶ 企業債充当率を抑えていく方向性になったとしても、起債自体はすることになるため、今後の支払利息についても負担の程度について併せて考えなければならない。
- ▶ 具体的な選択肢として挙げられている投資規模と、それから金利状況、充当率と考えると、建設改良費、料金水準、借入金の3つの要素をどのように組み合わせていくのかという議論ではないか。
- ▶ 公営企業は独立採算が前提としてあることは重々承知しているが、それはそれで考えたうえで、むしろこれからは人口も減少していく中で地域の人口を維持するとか、関係人口を呼び込むとか、トータルな地域の魅力を考える必要がある。投資のあり方を再定義し直すというところを、県の振興策と一体に考えていくような戦略がこれから必要になるのではないか。